



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2021.7-8

No.447

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



石戸宿、いまむかし

榎 本 秀 和（鴻巣市）

◇ はじめに

「えっ、石戸宿（いしどじゅく）？」

昨今では、北本市の自然観察公園と言わないと通じないこともあるらしい。埼玉県外からも、探鳥のために訪れる人が多いとか。

ふ〜む、時代を感じます。北本自然観察公園がオープンしたのは1992年。既に30年近くの歳月が経過しているのだから無理もない。では、自然観察公園がオープンする以前、バードウォッチングに恰好のこのフィールドは何と呼ばれていたか。

そう「石戸宿」。このあたり一帯を、バードウォッチャーたちは「石戸宿の農事試験場跡地」と呼びならわしていた。

以下、本稿では「石戸宿」と表記のうえ話を進める。

◇ 40年前の石戸宿

私が石戸宿に探鳥に通いだしたのは20歳代後半のころ。今からざっと40年くらい前のことだ。したがって、記憶はかなり怪しくなっているが、記録にとどめておきたいとも考え、執筆を試みるものである。

もともと石戸宿には、農林省の農事試験場があった（現在でも、その名残を見ることができる）。この場所は、農事試験場が茨城県つくば市に移転したあと、何かの都合で放置されていた場所だったようだ。個人の農耕地が入り組んでもいた。もちろん付近に人家はまばらで、と言うより道路が整備されてはおらず、よほど土地勘がなければ辿り着けないような「秘境」だった印象すらある。駐車場もなかった。道の傍らにユリノキがあって、そ



1991年4月25日 車道沿いのユリノキ並木
（埼玉県自然学習センター提供）

れがフィールドの入り口の目印だった。

このような「秘境」だったからこそ、石戸宿は魅力的な探鳥地として残っていたとも言える。サンコウチョウやサシバが繁殖していたことは今もなお語り草である。

書き漏らしたが、石戸宿は我が家からクルマで15分ほどの距離にある。私にとっては身近な探鳥地であり、熊谷市の大麻生と並んで、当時の私の貴重な探鳥修行の場であった。

◇ 病院ができるの？

このような広い土地が、いつまでもほったらかしになっているはずがない。

ある日、大きな病院の建設が計画されていることを聞いた。と同時に、多くのバードウォッチャーが、この地にバードサンクチュアリを作ることを埼玉県当局に働きかけていることも耳にした。どちらも、私の知らない世界での話だった。

そうこうしているうちに工事は始まる。病院となる区画は柵で仕切られ、キツネが闊歩していた牧草地も病院の敷地に取られた。その反面、バードサンクチュアリの概要も明らかになっていった。そして何より、いちばん大きく変わったのが道路事情だ。誰もがわかるきちんとした道路が整備され、それはそれでよかったのではないかなと思う。

◇ 自然観察公園オープン

2年近くの工期を経て、病院は竣工した。それと期を同じくして、バードサンクチュアリは「北本自然観察公園」として現実のものとなった。



碑『農事試験場畑作部址』（駐車場自販機裏）



1993年3月26日 センター2階より高尾の池
(埼玉県自然学習センター提供)

公園の面積は 30ha ほど。農事試験場跡地全体のどれくらいの広さに当たるのか、私には見当もつかないが、ベターな形でサンクチュアリエリアを残せたのではないかな。

1992年7月1日、「北本自然観察公園」は晴れてオープン。その前日には、県知事が訪れてオープン記念式典も挙行された。

公園内には、園内の管理および自然観察の拠点として「埼玉県自然学習センター」が設けられている。同センター2階から一望できる「高尾の池(上写真)」は、以前からあった池ではなく、公園整備にあたり新たに掘削されたものだ。おかげで、カモ類などの水鳥が身近に見られるようになって、観察できる野鳥の多様性が高まったことは喜ばしい。

元来、石戸宿は水質の良好な土地柄で、確か、水棲昆虫の新種が記録されたこともあった。谷地田を湿地として生かし、また、その周囲の斜面林を里山環境として残して、現在の石戸宿がある。

◇ 公園がもたらしたもの

JR 高崎線北本駅西口から病院行きのバスの運行が始まって、いつしか石戸宿は往時の「秘境」の面影を失った。

しかし、かつての自然環境のある程度が守られたことで、より多くの人々に自然体験を提供できる身近なフィールドに生まれ変わることができた。そう考えれば、「秘境」が跡形もなく破壊されなかったことは幸いだった、と言えはしまいか。

豊かな自然環境が保全されていたからこそではあるが、自然学習センターという施設ができて、専門のスタッフが常駐するように

なったこともありがたい。

◇ 石戸宿の思い出

思えば、石戸宿とは長い付き合いになる。

子どもたちがまだ小さかったころは、家族みんなでバードウォッチングに行った。探鳥に行くことは家族そろってのお出かけだった(我が家では鳥見に行くことを「トットに行く」と称していた)。

とは言うものの、あらためて振り返ってみると、石戸宿でどんな野鳥を見たか、具体的にはあまり覚えていない。ことさら例を挙げるまでもなく、様々な野鳥を当たり前を観察できる場所だったということか。

その代わり、家族と共に過ごしたたわいもない思い出はいくらでもある。

タヌキが茂みで昼寝をむさぼっていたこと、羽化するセミを夜の明ける前に探して歩いたこと、カブトムシがうじゃうじゃ樹にたかっていたこと、亡母が元気なころにホタル狩りに行ったこと、病院開設当初の院内レストラン(現在のレストランではない)が結構おいしく、特にデザート類が充実していたこと、などなど、家族と共に過ごした楽しい思い出は尽きることはない。

ただ、たったひとつだけ、残念な思い出がある。それは1996年4月、ミゾゴイが出た時のことだ。話を聞いたのが、ちょうど海外ツアーから帰ってきた翌日で、疲れがたまっていた私は、すぐにはミゾゴイ探しに出動する気分ではなく、2、3日後に出かけたときは抜けたあとだった。私はいまだに埼玉県内でミゾゴイを見たことがない。今となっては、これもいい思い出かな。

◇ おわりに

当会では、石戸宿(＝北本自然観察公園)で、偶数月の第1日曜日に定例探鳥会を開催している。新型コロナ禍の現下では、思うように探鳥会を開催できる状況にないが、気軽に探鳥会を開ける日がまた来るだろう。

40年前、目印にしていたユリノキは、今もなお人々の訪れを心待ちにしている。北本自然観察公園の入り口、「ふれあい橋」のたもとに立っているあの木が、そのユリノキだ(右写真)。



2021 年 春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 調査部

日 時：2021 年 4 月 25 日 9:28～11:24

場 所：さいたま市 大久保農耕地

天 候：晴れ

心配された天気でしたが、気圧の谷が北日本を通過したため晴れとなり、予定通りに調査できました。また、新型コロナウイルス感染防止のため一般公開を中止しました。調査を楽しみにしていた会員の皆様には、ご迷惑をおかけいたしました。

例年は田植えが終わっている田もある時期ですが、今年は水の入っている田が少なく、半分以上が田起こしも終わっていない状態で、調査するにはよい環境ではありませんでした。そのためか、全体の種数、個体数は3種17羽でした。

4月20日には36羽のムナグロを観察したとの報告がありましたが、当日は5羽しか観察できませんでした。やはり、田の作業の遅れが原因の1つだと思われます。

調査結果

	A 区	B 区	As 区	A'区
ムナグロ	1			4
コチドリ	3	4	2	2
タシギ		1		

下の表は春の調査結果のうち、最近の 10 年間をまとめたものです。それ以前の記録は「しらこぼと」2012 年 6 月号 (No.338) をご覧ください。

※タシギ属不明種は、種数に入れませんでした。
(石井 智)

春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
調 査 日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29		4/25
天 候	晴れ	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	晴れ		晴れ
1 ムナグロ	45	211				64		19	調査中止 荒川総合運動公園閉園中のため	5
2 コチドリ	9	11	10	5	6	6	7	4		11
3 セイタカシギ				1						
4 タシギ	1	8	2		9	2	6	1		1
5 チュウシャクシギ		2	1	2	4	1				
6 タカブシギ		1				1				
7 オジロトウネン		1								
9 タマシギ		2								
タシギ属不明種				2	1		3			
合 計	55	236	13	10	20	74	16	24		17

ムナグロとトラクター

石川敏男(春日部市)

鳥見をしていると、時にいろんな人に出会い、教えてもらうことがあります。

5月15日の朝、秀和総合病院(春日部市)の南側の田んぼにムナグロ6羽がいました。だいふ田植えが進み、わずかとなった代掻き田でした。

双眼鏡で見ていると、農家の方が声をかけて来られ、「鳥を見てるのかい？」と。「そうです」「シギだね」「いや、ムナグロといって、チドリの仲間なんです」という会話から、話が弾みまして、ご自分の経験談を披露してくださいました。

ムナグロがいる代掻き田は「ここはうちの田んぼなんですけど、トラクターで作業していると、近くまで来て逃げないんだよ。すぐ前なんで普通のカメラで撮れる。あんなでかい望遠カメラなんか要らないよ」「それはいいですね。うらやましい」「同じ姿勢でトラクターを動かしてれば逃げないけど、腕を少しでも上げたりして動かすとさっと逃げちゃうんだ。あいつらよく見てるよ。カワセミも近くまで来るよ。アオサギは蛙を捕まえると、こねくり回して頭から飲み込もうとするけど、カエルも飲み込まれないように体を膨らませて抵抗するんだ」「へえー、そうなんですか！ ドジョウは？」「サギは捕り方がうまいのと下手なのがいるね。うまい奴はドジョウをしっかり嘴で挟むけど、下手なのはミミズを捕まえてる。トラクターに乗ってても鳥を見てると飽きないよ」

農家の人ならではの体験を聞くことが出来ました。鳥と農家の共生関係？ですね。

石戸宿・5月の鳴き声と私の耳

吉原俊雄(北本市)

去年は石戸宿でメボソムシクイの声を群れで聞いたが、今年も5月23日の早朝に聞いた。この日はホトトギスの声も確認。エナガの群れがやって来て騒がしかったがそれが通過したらメボソムシクイも鳴き止み静寂に。

5月25日は探鳥会の下見。この日はキビタキが見られた。2人だけでは到底無理。期待していた同行者に感謝。

Aさんからオオムシクイの声を24日に聞いたと話があったが、私も早速26日にその声を聞いた。

聞いた時は、「メボソムシクイ？ なんか違うな。オオムシクイ？ リズムがジジロジロになっている」。家に帰って松田さんのCDを聞いたら、そっくりだった。

福島県の郡山に在住時(94年2月～09年1月の15年間。埼玉に戻って既に12年経ってしまった。)に4回聞いている(当時はコメボソムシクイ)が、時期はもっと後で6月に入ってからだった。こんなに遅くシベリアまで行って、子育てに間に合うのかしらと思った程。以前聞いた時は、はっきりジジロジロと誰が聞いてもその様に聞こえるだろうと思う鳴き方だった。耳が退化したからか。耳に自信がある家内も以前聞いたのと違うように聞こえると言うのだが。

私は最近耳に全く自信がなくなりました。先日の「ダーウインが来た」の「鳥が会話をしている」の場面で、シジュウカラやヤマガラなどの危険を知らせる声が非常に小さかったのも、家内に聞いたら、小さな声ではないとの事(ワシタカには聞こえない声と言っていました)。60歳で埼玉に戻り、2、3年後にヤブサメが聞こえない事に気が付き、その後は、冬のアオジ、最近はカシラダカも怪しい。冬のホオジロも怪しい。

草むらからキンヒバリの声と家内に言われるがキンヒバリの声は一生知ることが無い(キンヒバリ＝コオロギの仲間)。

更に最近気が付いたのは、シジュウカラの囀り。バリエーションが豊富でいろいろな鳴き方をするけれど、音色がシジュウカラだからすぐ分かると思っていたが、最近はシジュウカラの声を、あれは何かと頻繁に尋ねるようになった(何か聞いた事のある声とはわかるが)。シジュウカラと言われると納得するのだが。今聞いている声は、昔聞いた声(記憶している声)と違って聞こえているのだろうか。



野鳥情報

所沢市山口 ◇10月22日、ジョウビタキ初認。

12月30日昼過ぎ、突然ムクドリ約50の群れが飛び始めた。上空にオオタカが旋回していた（小林 茂・ますみ）。

狭山湖 ◇12月19日、ツグミ30以上がムクノキに群れていた。12月22日、カンムリカイツブリ300±、ハジロカイツブリ20±。この冬カモの飛来数がとても多かった（小林 茂・ますみ）。

羽生市 羽生水郷公園 ◇12月26日、赤くなったベニマシコ♂2と♀が1羽、楡の実を啄んでいた。キジバトが巣に入っていた。抱卵か？数羽のヨシガモの♂が飾り羽を誇示して、1羽の♀にまわりついてた。孤独が好きなのか、ミコアイサ♀が1羽、他のカモから離れて泳いでいた。輪を描いて飛ぶトビに1羽のカラスが近寄ったとき、大きさの違いが良くわかった。他にマガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、オオタカ、カワセミ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカなど（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇12月26日、元荒川のヒドリガモ約50の群れ中にアメリカヒドリ♂1。他にカルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン約50、イカルチドリ、タシギ、イソシギ、カワセミ、コゲラ、モズ、カケス、オナガ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジなど。1月1日、ヤマガラ、ルリビタキ♀。1月5日、元荒川でヒドリガモ約70、カルガモ10+の混群中にヨシガモ♂1♀1。その数百メートル下流にヒドリガモ約40とオオバン混群中にオカヨシガモ♂1（鈴木紀雄）。◇1月4日、元荒川でヒドリ

ガモ70+、オカヨシガモ♂2♀1、ヨシガモ♂1♀1、カルガモ12、コガモ、オオバン60+。1月10日午前10時頃、元荒川でヒドリガモ約70、カルガモ、コガモ、オオバン。上流の方からカワアイサ♀1（下写真）が泳いできてヒドリガモの群れに合流。その後、上流の方に飛び去る（藤原寛治）。◇1月6日、元荒川でヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、カルガモ、コガモ、オオバンなど（嶋田富夫）。



葛蒲町小林 N36.0598 E139.5883 ◇12月26日、車中から農業用溜池を覗くとミコアイサ♂が見えた。予期せぬ出会いに嬉しくなって、車を降りてよく探すと♀もいた。他にマガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ハシボソガラス、ムクドリ、スズメなど（長嶋宏之）。

鴻巣市関新田 N36.0922 E139.5248 ◇12月26日、川里中央公園とその周辺でキジバト、アオサギ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ニュウナイスズメ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワなど（長嶋宏之）。

蓮田市貝塚 山ノ神沼 ◇12月26日、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ダイサギ、オオバン、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇1月6日、キジバトのタカ落とし跡。メジロ4が杉の木の天辺で何度もフライキャッチ。ハクセキレイはまだ番い形成をしていない様だ。他にカルガモ31、マガモ♂1、ジョウビタキ♂

1、ツグミ1、シメ1など。1月11日、ヒヨドリがブロッコリーの葉を食べ始めた。エナガの声で3羽を見つけた。カメラを向けていたら、10～15羽のエナガが枝先で餌探しを始めた。近くでコゲラが幹をつつく音も。数分後、3～4羽のメジロが尾の短い姿を見せた。そして、身体の大きなシジュウカラやヤマガラも。気が付くといつの間にかエナガはいなくなっていた。他にカケス5、シメ2、ツグミ5、オナガ5、カルガモ31など。1月21日、シジュウカラが「ツッピー ジュクジュクジュク」。もう暫くすると「ツッピー ツッピー ジュクジュク」に変わるだろう。「ツッピー ツッピー ツッピー」に変わる日が待ち遠しい。他にヒヨドリ12、ムクドリ9、モズ1、ツグミ3、カワセミ1、カルガモ18、ハクセキレイ1、メジロ3など。2月1日、シジュウカラが「ツッピー、ツッピー、ツッピー、ツッピー」続けて4回鳴くようになった。春は近い。2月2日、シジュウカラがジュクジュク文句を言っている。庭先のマンリョウの実を食べたくて、私に「早く立ち去れ」と怒っていたのだ（長嶋宏之）。

草加市柿木町 そうか公園 ◇12月26日、ツミ若鳥1、オカヨシガモ♀5♀4（鈴木 功）。

加須市伊賀袋 ◇12月27日、イカルチドリ6、タカブシギ2、クサシギ2、タシギ1（鈴木 功）。

さいたま市見沼区 見沼自然公園 ◇12月30日、トモエガモ♂1（鈴木 功）。◇1月3日、トモエガモ♂1、ヒドリガモ、オナガガモ、コガモ、カルガモ、バン、オオバン、カイツブリ、シロハラ♂、ヤマガラ、ウソ♂1。鉄塔にオオタカ成鳥1。12月に3羽いたトモエガモが1羽に。いつもいるオカヨシガモ不在（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇1月2日、ツミが上空を舞う。アカハラが水浴び、クイナが水路の上の氷上をヒョコヒョコ歩く。アリスイ1、ベニマシコ（声）。ミヤマガラス約100の群れが空をグルグル回りながら南西へ。1月4日、オオタカがハシボソガラスを襲うも失敗。ベニマシコ♀1。クイナ3、2羽は追いかけ合い。カワセミ2、タシギ1、ジョウビ

タキ♀4、アリスイ1+、2ヶ所から声。国立病院機構東埼玉病院敷地内でジョウビタキ♂1、トラツグミ1（鈴木紀雄）。◇1月3日、ヨシ原にオオジュリンが多い。ベニマシコ2、草原にカシラダカの群れ30+。センダンの木にヒヨドリ、ムクドリ。ヒヨドリがセンダンの実を食べていた。凍っている水路にクイナ1が出てきて氷の上を歩いて行く。バン3と一緒にいる。バンの方が少し大きい。ノスリ1帆翔。上沼の近くでクイナ1。他にタシギ、ツグミ、アカハラ、カケスなど（藤原寛治）。

越谷市北後谷 県民健康福祉村 ◇1月2日、池でユリカモメ60+、ヒドリガモ、マガモ、キンクロハジロなど。餌に集まり大騒ぎ（鈴木紀雄）。

上尾市地頭方～平方領領家 ◇1月3日、スズメ、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミヤマガラス3、カワラヒワ、ムクドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ウグイス、アオジ、ホオジロ、モズ、ヒメアマツバメ、ジョウビタキ、ツグミ、シメ、クサシギ、コゲラ、ヒバリ13、ヒヨドリ38、オナガ27。メジロの声が沢山聞こえてきたので探してみると、ヤツデの花に23羽集まって食事中だった。去年7月下旬から始まった河川敷工事で水鳥たちが減少している！1月25日、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、シメ、ジョウビタキ、オナガ、ホオジロ、キジ、ウグイス、モズ、ヒバリ、ツミ、エナガ18、カワラヒワ23、ムクドリ46、スズメ58、ヒヨドリ41、ツグミ19。何処からか威嚇のような激しい声が聞こえてきたので探してみると、雑木林で複数のカケスが鳴いていた。しばらく様子を見てみるとオオタカが林から現れ、飛び去る姿を確認。メジロ、シジュウカラの混群の中にコガラ1を見つけた。（村越百合子）。

さいたま市の鴨川 ◇1月4日、島根橋～植水小学校付近でカルガモ21、オオバン15+、バン2、クイナ1、カイツブリ2、ハシビロガモ3、コガモ15+、カワセミ、カワウ、

ダイサギ、アオサギ、コサギ、キセキレイ3、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ハシボソガラス9+、チョウゲンボウ1など。林光寺近くの道路脇の桜から白い小さな羽が次々降ってきたので見上げると、枝の上では爛々たる金色の目のオオタカ成鳥1が嘴いっぱい羽毛をくわえていた。近くにシジュウカラ5の群れ。1月10日、淀みに立っていたダイサギ1が翼を大きく広げて舞い歩いたと思うや、素早く小魚を捕えて飲み込んだ。この個体は嘴が黄色く脚の上部が肌色（大塚純子）。

さいたま市岩槻区南辻 ◇1月4日、遊水池で潜水を繰り返すカワアイサ♀1（鈴木紀雄）。

所沢市 荒幡富士 ◇1月6日、リュウキュウサンショウクイが目の前のコブシの木にとまった。観察中周囲では3羽のシロハラがバトルをしていた。1月7日、トラツグミ1、ルリビタキ♀1、アオゲラ2（小林茂・ますみ）。

さいたま市緑区上野田 ◇1月6日、高木の頂にとまるコチョウゲンボウ♂1。1月9日、道路脇の水路でケリ1、タシギ4、コサギ1、ダイサギ1、アオサギ1、セグロセキレイ1、ハクセキレイ1。1月27日、道路脇の水路でタマシギ♀1、タシギ1採餌。1月28日、道路脇の水路でタマシギ♀1、タシギ4採餌。2月10日、道路脇の水路でケリ1、タシギ2（鈴木紀雄）。

さいたま市西区 大宮花の丘農林公苑とその周辺(53397436) ◇1月8日、カルガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、オオバン、コゲラ、カケス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、亜種ハチジョウツグミ、ルリビタキ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ、カシラダカ。1月20日、カルガモ、キジバト、オオバン、カワセミ、モズ、カケス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、亜種ハチジョウツグミ、ルリビタキ、スズメ、ハクセキレイ、シメ、アオジ、ハヤブサ（右上写真）（嶋田富夫）。



越谷市 越谷レイクタウン ◇1月9日、ハジロカイツブリ1、カンムリカイツブリ5、トモエガモ♂4♀4、ミサゴ1、アリスイ1。1月17日、ハジロカイツブリ2、カンムリカイツブリ5、ミサゴ1、アリスイ2（下写真）、アトリ♀1、ベニマシコ♂1。1月30日、カンムリカイツブリ5、ミコアイサ♀型2。2月6日、カンムリカイツブリ4、ミコアイサ♀型2、アリスイ1。2月7日、カンムリカイツブリ3、ハイタカ♀型1、ベニマシコ♀2（鈴木 功）。



さいたま市桜区白鷺 ◇1月11日、電建調整池横の白神川でタシギ1。水の中をつついてミミズのような長い生き物を捕食。少し下流ではコガモ2が川底からどろどろの藻？を採食（大塚純子）。

さいたま市緑区南部領辻 鷲神社(53396576) ◇1月13日、キジバト、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ニシオジロビタキ、スズメ、シメ、アオジ（嶋田富夫）。

所沢市上山口 堀口天満神社周辺里山保全地域 ◇1月16日、ルリビタキ♂♀、ミソサザイ、トラツグミとシロハラが小競り合いし、トラツグミが退散。

1月30日、ルリビタキ♂♀、キクイタダキ、マヒワ約20、ミソサザイ、オオタカ、リュウキュウサンショウクイ。2月6日、イカル約20、カケス（小林 茂・ますみ）。

久喜市 久喜菖蒲公園 ◇1月22日、昨日、コハクチョウ15、ヒシクイ3、カワアイサ1が入っているとの情報に、行ってみた。カワアイサ♂1はいたがコハクチョウ、ヒシクイの姿はなかった。他にヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、オオバン、セグロカモメ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アオジなど（長嶋宏之）。

草加市柿木町 ◇1月24日、オオタカ成鳥1。1月30日、オカヨシガモ♂2、イカル1、カケス3。2月7日、ハイタカ♀型1、キレンジャク20±。キレンジャクは中川河川敷で上流から下流側に飛んでいった。2月28日、オカヨシガモ♂3♀2、カケス3、アトリ♀1（鈴木 功）。

白岡市 白岡総合運動公園 ◇1月27日、この冬のさなか、育雛中のカイツブリの親子がいた。親は夏羽で子は潜れるまでに育っているが顔に縞模様が残っていた。子は親の後を追ってしきりに鳴き、何度も小魚をもらっていた。他にヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、コサギ、ノスリ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワなど（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区膝子 ◇1月27日、モズ♂♀が一緒にいるし、ヒバリ、ホオジロも囀っていて、春の気配。ノスリも2羽が同じ木に。水路にクサシギ、草原にカシラダカ50、コジュリン1。2月3日、ヨシ原と草原にオオジュリン5、カシラダカ10、コジュリン1（鈴木紀雄）。

春日部市 内牧公園 ◇1月28日、電線にスズメ60±がぴったり身体を寄せ合って並ん

でいた。隣ではカワラヒワ50±が、そこから少しはなれてムクドリ30±も並んでいた。一羽一羽の間隔は、ムクドリ>カワラヒワ>スズメの順だった。飛び去っては戻って来たが、3種が混じることは無かった。他にキジバト、アオサギ、コサギ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ハクセキレイ、タヒバリ、シメなど（長嶋宏之）。

北本市 北本自然観察公園 ◇2月4日、きれいなキセキレイがいた。ジョウビタキは♀ばかり6羽。久しぶりにルリビタキ若鳥に出会えた。他にコガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、オオバン、タカ科不明種、コゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ツグミ、セグロセキレイ、ベニマシコ、シメ、カシラダカ、アオジ（長嶋宏之）。

さいたま市大宮区寿能町 ◇2月6日、大宮第二公園脇の芝川でミコアイサ♂1♀1（下写真）（鈴木 功）。



さいたま市岩槻区大戸 ◇2月6日、第六天神社傍の元荒川でヒドリガモ20±の群れ中にアメリカカヒドリ♂1（藤原寛治）。

J R 高崎線鴻巣駅 ◇2月8日午前10時頃、ホームのベンチ下にイソヒヨドリ♂が1羽。やがて電線に飛び上がる（榎本菜摘野）。

表紙の写真

スズメ目ツバメ科ツバメ属ツバメ

農作業が少ない7月。舗装道路に降りた幼鳥たちはカー一杯餌をねだり、親はあちこち忙しい。**チャリバーダー48（さいたま市）**



9月から10月に開催予定の探鳥会（全て事前予約制です）と、その他の行事のご案内です 普及部

【事前予約制探鳥会の開催要項】

1. 日本野鳥の会会員限定の先着順（ただし、埼玉会員優先）とする。
2. **申し込みは、当会のホームページからとする**（原則として開催日の4週間前から、ホームページで受け付けを開始）。
予約なしでの参加はご遠慮ください。
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」（最新版が、当会ホームページの「探鳥会」>「今月の探鳥会」から閲覧できます）に沿って実施する。
4. **必須条件**：マスクまたはフェイスシールドなどの飛沫防止策（ご用意のない方は参加をご遠慮ください）。
5. 筆記用具や観察用具（双眼鏡等）は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から新型コロナウイルス感染者が出た場合には、参加者名簿を保健所に提出する。
7. **新型コロナウイルスの感染拡大が続いている場合は、探鳥会を中止する事があります。最新情報をホームページで確認してから参加してください。**

【熱中症対策について】

まだまだ残暑/猛暑が続いていることと思います。普及部では猛暑下での探鳥会をどのように運営するかについて検討し、2018年7月に「熱中症ガイドライン」を作成しました。『しらこぼと』2021年5-6月号12ページにガイドラインの概要を掲載しましたので、ご一読ください。このガイドラインに沿って探鳥会を中止する場合も、ホームページおよび参加者各位へのメールでお知らせしますので、お出かけの前に必ずチェックしてください。

安心・安全な探鳥会実現のために、ご協力よろしくお願いします。

新潟県・山本山高原～銀山平探鳥会 ・要予約

期日：9月11日(土)～12日(日)

集合：11日午前6時30分 大宮駅西口、および午前7時 川越駅西口の2ヵ所。

解散：12日午後8時 川越駅西口、および午後9時 大宮駅西口の2ヵ所の予定。ただし、高速道路の渋滞等の交通事情により変更することがあります。

交通：集合地から貸切バスを使用。

費用：35,000円の予定（バス代、宿泊代、2日目の昼食代、旅行傷害保険代、遊覧船乗船代等を含む）。

※過不足の場合は当日清算。

※集合・解散場所までの交通費は各自負担。

定員：16名（最少催行人数12名）

担当：入山、近藤、佐野、長谷部

見どころ：イヌワシを絶対見たい。それ以外に1) 小千谷市山本山高原ではタカの渡り、2) 枝折峠での雲海観察&早朝探鳥、3) 奥只見湖遊覧船に乗船しての探鳥。

その他：宿泊先は銀山平温泉『湖山荘』で、男女別々の相部屋です。個室の用意はできません。参加者には後日詳しい案内を発送します。

さいたま市・三室地区定例探鳥会 ・要予約

期日：9月19日(日)

集合：午前9時、「みむろ桜広場」（さいたま市立病院バス停（終点）から徒歩約5分）。

交通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから8:21発 東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。（バス停で道案内します。）

解散：正午前に集合地で。

募集人数：20名

担当：浅見(徹)、青木、小林(み)

見どころ：9月の三室は、晴れると暑いです。

その日の天候によって、見沼代用水西縁の木陰道を歩くか、芝川の土手で川風に吹かれるか、見沼たんぼの農耕地でホオジロとキジに遊んでもらうかを考えます。上空にオオタカが飛んでくれたら、ラッキー。

松伏町・松伏記念公園探鳥会・要予約

期日：9月23日（木・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き9:00 発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線 吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き8:40 発で「松伏高校前」下車。

解散：正午ころに集合地で。

共催：松伏町中央公民館

募集人数：当会会員15名、共催団体5名。

担当：山部、石川(光)、植平、佐藤(宏)、佐野、橋口

見どころ：公園と田んぼを歩きます。田んぼでは、稲刈りで飛び出すバッタ類やカエルたち、それを待ち構えるサギたち。見ものです。

狭山市・入間川定例探鳥会・要予約

期日：9月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越8:43 発、または所沢8:41 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園で。

募集人数：10名

担当：長谷部、石光、佐藤(久)、山口

見どころ：夏鳥がいつの間にか姿を消し、秋の草花もちらほら。冬鳥の到着には少し早いけれど、渡り途中の鳥に会えるかもしれません。

北本市・石戸宿定例探鳥会・要予約

期日：10月3日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス8:38 発で「自然観察公園前」下車。

解散：正午前に集合地で。

募集人数：20名

担当：吉原(俊)、相原(修)、秋葉、浅見(徹)、近藤、千葉、吉原(早)

見どころ：10月頃のこの公園には、時々変な鳥が立ち寄ります。今年は何が来ているかな。この時季常連のヒタキ類や、猛禽類にも期待しています。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会・要予約

期日：10月3日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37 発で「念仏橋」下車。

解散：正午ころ、浦和くらしの博物館民家園。

募集人数：20名

担当：大井、伊藤、須崎、手塚、

見どころ：芝川第一調節池コースを予定。10月はモズの高鳴きの季節、その声に対抗してアリスイが姿をみせるか。さらに注目はツツドリ、秋の渡りでは鳴かないので見つけにくいのが好物の毛虫を求めて飛来するかも。昨年9月下旬、コウノトリ3羽が飛来しビックリ。今年もサプライズの予感あり。コロナ、残暑に注意してご参加ください。

ご注意：コースの途中でトイレはありません。

さいたま市・三室地区定例探鳥会・要予約

期日：10月17日（日）

集合：午前9時、「みむろ桜広場」（さいたま市立病院バス停（終点）から徒歩約5分）。

交通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから8:21 発 東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。（バス停で道案内します。）

解散：正午前に集合地で。

募集人数：15名

担当：青木、浅見(徹)、小林(み)、須崎

見どころ：今度こそ中止にならぬことを祈り、ノビタキに会えることも祈ります！ ぜひお申込みをお待ちしております。

長野県・戸隠高原探鳥会・要予約

期日：10月23日(土)～24日(日)

集合：23日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。

交通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大宮7:17→熊谷7:30→高崎7:45→長野8:37着)、または「かがやき503号」(東京7:20→大宮7:45→長野8:42着)など。

解散：24日16時頃、長野駅前。「あさま626号」(16:24発)に乗車できるように調整。

費用：16,000円の予定(1泊3食、現地バス代、旅行傷害保険料等)。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：12名。

担当：菱沼(一)、浅見(徹)、菱沼(洋)

見どころ：春の戸隠探鳥会は開催できませんでした。秋はワクチンを打って参加できたらと思います。ムギマキもマミチャジナイも皆さんをお待ちしております。今回もコロナ対策のため、参加人数を少なくして実施します。

その他：宿泊は男女別2名1室(夫婦は同室)。



オンライン会議システムを使った野鳥フォーラムを開催しています。スマホやパソコンを使ってリモートで参加できます。当会ホームページから参加申込をしてください。今後の開催予定は以下のとおりですが、詳しくはホームページをご覧ください。

第22回

期日：7月4日(日)16:00～

演題：「ニュージーランドの自然と野鳥」-2

副題：Penguinを巡る旅 他

講師：埼玉県絶滅危惧動物種調査団副代表・(公財)さいたま緑のトラスト協会理事 小峯 昇氏

第23回

期日：7月11日(日)16:00～

演題：「2020年、鳥は？」-4

副題：コロナの年の探鳥記・冬

講師：当会幹事 佐野和宏

第24回

期日：7月18日(日)16:00～

演題：「おひとりさまバードウォッチング」

副題：みんなで語ろう、BWの楽しみ

講師：当会幹事 長野誠治

第25回

期日：7月25日(日)16:00～

演題：「野鳥の声」

副題：識別と覚え方のコツ

講師：当会幹事 菱沼一充

第26回

期日：8月1日(日)16:00～

演題：「羽日記・付けた」-5

副題：9月、10月の日記 ヤマドリ・ツツドリ

講師：当会幹事 近藤龍哉

「おひとりさまバードウォッチング」に
参加しました 山部直喜(三郷市)

5-6月号に紹介されたこの新企画、6月17日に張り切って参加。参加といっても「お一人様」。しかし、「面白い、参加するよ」と連絡してくださった方もいて、どこかで誰かとつながっているという気持ちがある。コロナ禍の一人観察会とはなんだか違う。久しぶりに望遠鏡も用意した。

コースは数日前から地図と相談。なんとなくワクワク感がある。

最初に考えたコースは夏鳥調査で回った所だ。様子が分かっている観察種数を稼ぐことができる。しかし、実施要項に「観察種数の多さを競うことは目的ではない」とあり、この案は却下。結局、稼ぐのは夏鳥調査地点数とし、調査したことのないところを選んだ。時間帯も通常の探鳥会同様、午前だけとした。

結果は、予想した種を超えるものはなかったが、探鳥会の出現数としては満足。しかし、一緒に反芻する相手がいないのは少々寂しい。

ところで夏鳥調査は確か7月10日まで。この号が届く頃はまだその期間中。こちらも、もうひと頑張りできそうだ。



行事報告

新型コロナウイルスの感染拡大により、計画されていた以下の探鳥会は中止されました。

- 5月1日(土) 栃木県 小倉山森林公園
- 5月3日(月祝) 幸手市 宇和田公園
- 5月15日(土) 加須市 加須はなさき公園
- 5月15-16日(土-日) 長野県 乗鞍～上高地
- 5月15-16日(土-日) 長野県 戸隠高原
- 5月23日(日) 狭山市 入間川
- 5月23日(日) さいたま市 三室地区
- 6月3日(木) 羽生市 羽生水郷公園
- 6月6日(日) 北本市 石戸宿
- 6月20日(日) さいたま市 三室地区

探鳥会出現鳥の今昔

調査部 森本國夫

今回は、調査部員として担当している野鳥データベースを使って、県内探鳥会での記録回数上位の鳥について数字を紹介します。いろいろ見えてきます。(今: 156種/440回、昔: 175種/275回)

2015/12/1-2020/11/30		1984/12/1-1989/11/30	
鳥 種	回数	鳥 種	回数
ハシブトガラス	432	スズメ	270
キジバト	431	キジバト	268
ヒヨドリ	425	ヒヨドリ	265
シジュウカラ	424	ハシボソガラス	264
スズメ	408	ムクドリ	262
ハシボソガラス	394	ハシブトガラス	256
ハクセキレイ	387	カワラヒワ	251
カワラヒワ	382	ホオジロ	244
ホオジロ	360	セグロセキレイ	224
モズ	358	コサギ	221
メジロ	358	シジュウカラ	220
カワウ	354	モズ	212
カルガモ	353	ハクセキレイ	209
コゲラ	352	カルガモ	193
ムクドリ	344	ヒバリ	192
アオサギ	328	オナガ	185
ツグミ	315	ツグミ	152
ウグイス	297	コジュケイ	140

シメ	297	メジロ	140
カイツブリ	285	イソシギ	136
アオジ	284	ウグイス	135
カワセミ	274	アオジ	133
コガモ	273	キセキレイ	132
ジョウビタキ	255	コガモ	128
セグロセキレイ	255	コゲラ	121
ダイサギ	243	ツバメ	120
エナガ	221	カイツブリ	118
オオバン	218	ジョウビタキ	117
オオタカ	196	シメ	113
マガモ	191	カシラダカ	110
トビ	186	カワセミ	109
キジ	183	カケス	102
カシラダカ	168	オナガガモ	86
ヒバリ	159	キジ	82
シロハラ	154	イカルチドリ	81
ノスリ	138	タシギ	79
バン	135	セッカ	79
チョウゲンボウ	133	ダイサギ	75
ツバメ	121	タヒバリ	75
ヤマガラ	117	イワツバメ	63
ベニマシコ	110	コチドリ	60
ヒドリガモ	105	マガモ	59
カケス	104	トビ	59
コサギ	94	オオヨシキリ	54
コジュケイ	87	クサシギ	52
キセキレイ	86	ユリカモメ	52
イカルチドリ	85	タカブシギ	48
キンクロハジロ	84	ゴイサギ	47
オカヨシガモ	81	チョウゲンボウ	41
ホシハジロ	78	ノスリ	40
オナガ	75	アオサギ	38
オナガガモ	73	ハマシギ	38
ハシビロガモ	69	タゲリ	37
イソシギ	69	オオタカ	37
カンムリカイツブリ	68	ヒドリガモ	36
アトリ	68	バン	36
タヒバリ	66	エナガ	34
オオジュリン	66	シラコバト	33
アカゲラ	65	ハシビロガモ	28
ハヤブサ	58	オオジュリン	27
コチドリ	56	ホシハジロ	25
ハイタカ	55	カッコウ	25
アオゲラ	49	ヒガラ	25
アカハラ	49	カワウ	24
クイナ	47	サシバ	22
ハジロカイツブリ	43	キンクロハジロ	21
ゴイサギ	43	アマツバメ	21
セグロカモメ	42	キアシシギ	21



連絡帳

●本誌の発行日について

本誌は、通常同封発送する本部『野鳥』誌の発行日に合わせて、原稿作成、印刷、納品の手順を進めています。

ところが『野鳥』誌 7-8 月号が、通常より早い発行日になったため、それに合わせて本誌 7-8 月号も早めに作成し、早めにお手元にお送りすることになりました。

次号からは、また前と同じような日程になります。

●会員数は

6 月 1 日現在 1,464 人です。

活動報告

5 月 10 日(月)、『しらこぼと』5-6 月合併号入稿。

5 月 14 日(金)、5-6 月合併号埼玉事務局発送分納品。

同日、5-6 月合併号を『野鳥』誌と同封発送しない会員に向けて袋詰め作業後、浦和中郵便局から発送(海老原教子、海老原美夫、山部直喜)。

5 月 31 日(月)～6 月 2 日(水)、役員会メーリングリストによる役員会を開催。5 月 28 日(金)と 5 月 30 日(日)、2 回のメールで長野誠治普及部長から上程された第 1 号議案「9 月・10 月の探鳥会計画」を承認した。

見たい! 撮りたい! 両方 OK!

Young 探鳥会リーダーの廣田純平さんが、Canon のポケットサイズの望遠鏡型カメラ「PowerShot ZOOM (右写真)」のモニターとしても活躍中です。



詳細は本会 HP を開き、埼玉 Facebook をご覧ください。「えっ、こんなに小さいカメラでここまで写るの?」と声が聞こえてきそうです。(編集部)

編集後記

行事報告のページに探鳥会報告を掲載できないので、いろいろな記事を書いています。今号は、探鳥会出现鳥の今昔について掲載しましたが、誌面の都合で一部しか出せません。データ全体をご覧になりたい方は、調査部までメールでお知らせください。Excel のファイルをお送りします。

(森本)

1 月、彩湖に 40 羽ほどのミコアイサが飛来した。2 月、マヒワの群れに何度も出会った。3 月、ヒレンジャクがフライングキャッチをくり返していた。4 月、クイナの嘴の朱色が鮮やかだった。5 月、久しぶりのアカガシラサギを見つけた。6 月、シロエリオオハム夏羽に出会った。うむ、悪くない半年だ。(海)

しらこぼと 2021 年 7・8 月合併号(第 447 号)定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyoumu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社